

令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年3月31日

施設名	港区立特別養護老人ホーム港南の郷	施設所管課	保健福祉支援部 高齢者支援課
所在地	港区港南3-3-23	指定管理者	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部東京都済生会

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
事業計画や運営指針の検討に職員が参画し、ボトムアップ方式で取り組んでいる。職員の企画・提案内容について、各種委員会や行事・理念研修等でも議論・検討を重ねている。一方、職員の育成については、職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の年間人材育成計画や、職員研修委員会での研修計画策定を通して計画的に進めているが、非常勤職員の構成比率も高くなってきており、より一層の検討が望まれる。非常勤職員を含めた職員一人ひとりの意欲向上や、育成の取り組みをさらに充実させていくことが望ましい。		職員の育成、意欲向上については、指摘内容に記載されている通り、長期的な視野にたって意欲的に取り組んでいる。非常勤職員についても、新任研修に参加してもらい、施設の方針等を説明した。	職員の意欲向上については、ICTによる労働負担軽減による労働環境の改善、介護保険制度における処遇改善加算、東京都の処遇改善加算等を積極的に活用した賃金の改定に取り組む（賃金の改定については、非常勤職員も同様）。	非常勤職員を含めた全職員の意欲がさらに向上するよう、ICTを活用した事務作業の改善や賃金の改定などの取り組みを指導していく。合わせて、育成メニューの充実についても指導していく。
コロナ禍の影響により、外出等の機会は減ってしまっているが、少しでも多く外出の機会を提供できるように努力している。車から降りて散歩することはできないが、近隣をドライブし、気分転換を図るとともに季節感を感じてもらっている。また、ボランティアや地域との交流も少しずつ再開を始めている。今後も、感染症の動向を見ながら、利用者が外出したり、ボランティアや地域住民と交流できる機会を増やしていくことができるような工夫を検討していくことが望ましい。感染症予防との両立や、職員の施設外での支援を充実させていくことが望ましい。		面会を徐々に再開し、ご家族による施設外の散歩等も許可している。3月には近所の公園まで花見外出を行った。	今後は、コロナで中止していた行事等も再開し、それに伴ってボランティアの受入や、地域の区民との行事を通しての交流なども実施する予定。	令和5年度において、入居者が少しでも外出できるような工夫や、ボランティア活動の再開が見られた。令和6年度は、感染症予防はもとより、積極的なサービス内容の提供を指導していく。
ICT化が進展しており、排泄チェック表等の一部を除いて、介護システムとグループウェアにほとんどの情報が集約されている。所定の書式以外に、施設独自に作成した書式により収集した情報も多く、情報量は非常に充実している。今後、蓄積されたデータを活用しやすくする工夫を検討していくことが望ましい。		指摘にも記載されている通り、蓄積された情報は多岐にわたり、情報量は非常に充実している。指摘以降、職員へのヒアリングを行ったが、蓄積されたデータを「活用しにくい」という現場の声は、出なかった。	今後も蓄積された情報を積極的に活用して、利用者に対するサービスの向上に努める。	充実した情報の蓄積が確認できた。令和6年度は、蓄積された情報を積極的に活用し、利用者に対するサービスの向上につながるよう指導していく。